

# 長崎の林業

小曾根星堂書



おうとう  
翁頭山の山頂から景色を楽しむ生徒たち（五島市）

5

## 目次

● 林政だより	令和4年度 ながさき森林環境税事業の概要 ……………	2～3
● 特集記事	山の整備を通し美しい海の環境を守りたい 薪の販売でSDGsに挑戦 東彼杵町 菊本丞馬さん ……………	4～5
● 林業普及だより	将来の林業の担い手の確保を目指して ……………	6
● 地方だより・県央	林業現場安全パトロールの実施 ～「林業の労働災害をゼロへ」の実現に向けて～ ……………	7
● 地方だより・五島	令和3年度翁頭中学校卒業記念植樹 ……………	8
● 林業団体情報	令和4年度 長崎県民の森 年間イベントのお知らせ ……………	9
● センターだより	松くい虫被害を抑えるために ～マツノマダラカミキリ初発生日予測図の作成～ ……………	10
● 紹介コーナー	木工作家 濱端弘太(はまばたこうた)さん ……………	11
● 長崎の山と森	長崎市いこいの里 ……………	12

「長崎の林業」は、  
ながさき森林環境  
税により発行して  
います。



2022  
No.800

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政だより

# 令和4年度 ながさき森林環境税事業の概要

令和4年度から、第4期ながさき森林環境税事業が始まります。

ながさき森林環境税は、近年のSDGs やカーボンニュートラルなどの社会的要請に応えるとともに、森林の整備や木育の推進、県産材の利用拡大など、森林の持つ公益的機能の維持発揮のため、「環境重視」と「県民参加」の視点に立った様々な活動を実施します。

令和4年度に実施する主な事業について紹介します。

## 「環境重視」の取り組み

### ①人集う里山づくり 里山林整備事業

地域に、より身近で親しめる里山林となるような森林の整備を進めるとともに、安全で安心できる生活環境を提供するため、荒廃した森林の伐採や林内整理、森林の保育管理に必要な作業歩道の整備を行います。また、シカの食害等から保全すべき森林を守るためにネット等の設置を実施します。



整備された里山林

### ②持続可能な森林づくり

#### 1. 未整備森林緊急整備事業

森林経営計画区域内の荒廃した人工林において、スギ・ヒノキの成長を促進するために、行う保育間伐を実施します。



保育間伐を実施した森林

#### 2. 森林作業道整備事業

森林経営計画区域内で、効率的な森林整備を実施するために、森林整備と一体となって行う森林作業道の開設を行います。



森林作業道の開設

### ③未来へつなぐ多様な森林づくり

収穫期を迎えた森林において、「環境と防災に配慮した主伐」を推進し、「再造林の低コスト化」及び「多様な効果が期待される樹種の植栽」への取り組みを要件として、計画的に主伐と再造林を行う場合に、苗木の植栽、下刈、獣害対策について支援します。



主伐と再生林の実施



県内林業研究グループの研修会

## 「県民参加」の取り組み

### ④ふるさとの森林づくり事業

市町が実施する「ながさき森林環境税」の趣旨に即した地域の独自性と創意工夫による多様な取り組みを支援し、地域の森林づくりや県産木材の利用等の促進を行います。



森林のめぐみ普及・啓発

### ⑤ながさき県民参加の森林づくり事業

県民の皆さまが「ながさき森林環境税」の趣旨に即して、自ら企画立案して実施する植樹を中心とした活動、森林の環境整備を中心とした活動、森林教育・森林体験活動、里山林の資源（特用林産物含む）を保全・活用して山村の活性化を図る活動などを支援します。

### ⑥ながさ木・なごみの街づくり

県産木材の利用を促進するために、民間の「ウッドチェンジスペース」及び「教育・保育スペース」において、木質化及び木製品を県産木材で整備する取り組み並びに、県産木製品等の開発について支援します。

「木質化」とは、建築物の新築、増築、改築又は模様替えにあたり、天井や床、壁などの室内に面する部分、外壁やデッキ等の屋外に面する部分に県産木材を使用し整備することです。

「木製品」とは、机、テーブル、椅子などの家具、又は遊具や玩具等、木材を主な原料とした製品のことで。



保育施設の木製品導入

(林政課計画調整班)

ながさき森林環境税について、詳しくはホームページで確認してください。



【特集記事】

# 山の整備を通し美しい海を守りたい

薪の販売でSDGsに挑戦

東彼杵町 菊本丞馬さん



長崎薪ベース、キコリベース 代表取締役 菊本 丞馬さん(右)と奥様の裕聖さん(左)

## 美しい長崎の海に魅了されて

今回ご紹介するのは、3年前大阪から東彼杵町に移住された菊本丞馬さんです。優しい笑顔が印象的な菊本さん、実は知る人ぞ知るフリーダイビング競技の選手です。フリーダイビングとは、酸素ボンベなどの器具を使わず無呼吸のまま潜る競技のことで、素潜りでの潜水の深さを競います。この競技の世界大会に2大会連続日本代表として出場、昨年は自身の最高潜水深度 81mへの挑戦も成功され、日本男子歴代3位の記録を樹立しました。

世界中の海を見てきた菊本さんが、魚種の多さや大きさにおいて「世界一」と称するのが長崎の海、その美しさと豊富な魚種に魅了され移住を決意されたそうです。

## 海から見た山の整備の大切さ

壱岐市郷ノ浦町にゲストハウスを構え、夏場はそちらに拠点を移し、ダイビングや魚突きのガイドを行う菊本さん。しかし移住したての頃、初めて大村湾に潜った際に衝撃を受けたと言います。これまで潜ってきた長崎の海とは少し状況が違っていたの

です。沿岸部の濁りが強く、魚も小さくて少ない。その理由は地形にありました。東彼杵町は海と山の距離が近く、整備が行き届かない山からの土砂が直接川を通して流れ込み、濁りが発生している状況を目の当たりにしたのです。そこで、自分たちの住む地域の海の環境改善に繋がるよう、間伐による山の保水力を高める活動を始めました。伐採に関する知識と技術を習得するため、地元の方や森林ボランティア支援センターの協力を受け、少しずつ整備を進めました。



(左)伐採の様子



(右)現在整備中の山の様子

## 不要な材を薪に

菊本さんのご実家は長野県白馬村でペンションを営まれています。山に囲まれた自然豊かな場所で、子どもの頃から暖炉に薪

をくべ、お客様をお迎えする手伝いをしてきたそうです。その経験から、間伐で出た不要な木を即処分するのではなく、有効活用する場として2021年に薪専門の製造販売会社「長崎薪ベース」を起ち上げました。



(左・右)薪の製造加工の様子

## 雇用促進とネットワーク作り

一昨年から1年かけて準備した薪はおよそ30t。しかしホテルや高齢者施設、個人客など去年1年間で100件程の顧客を抱えるまでに急成長した事もあり、需要に対し薪の供給が追い付かなくなりました。個人で薪を製造している人に声をかけ、買い取って運搬し、必要とする人に何とか届けることが出来ましたが課題が残る結果となりました。しかしそこから薪ベースの今後のあり方を考え直すヒントを得たそうです。



(左)薪ベース全景

(右)乾燥中の薪

今回の課題を受け、菊本さんの新しい挑戦が始まりました。まずはスタッフの充実、伐採経験者を条件とした求人には約50名の応募があったそうです。経験者を採用したことで作業の効率化を図る事が出来ました。

また今後進めていきたいのが、薪ベースを起点とした、薪製造のネットワーク作りです。県内各所の山に携わる人や薪を製造する人たちと契約し、基準や買取価格を決め、安定した薪の確保を目指します。各所に薪製造の場を作ることで、運搬費や人件

費の削減が可能となり販売価格を抑えることができ、さらに山に携わる人の収入源の確保にも繋がります。長野県のある企業では実際この方法が取られており、安定した販売が定着しているそうです。その土地の木で作った薪を、その地で販売する、あらゆる所に倉庫があるのと同様のネットワークができるのです。競争するより安定した価格で取引する約束を確立させたい、品質の問題など沢山の課題も、これから勉強を重ねていきたいと話されました。

## 「キコリベース」と今後の展開

今後は薪の製造販売だけでなく、山を整える仕事にも力を入れたいと設立されたのが、伐採をメインとする「キコリベース」です。お客さんのニーズを重視して地域密着型で低価格という点にこだわり、伐採した木は無料で引き取り薪に加工します。様々な理由で伐採を希望する依頼に応えるべく山のベテラン2名で作業にあたります。

このような菊本さんのアイデアを陰で支えているのが奥様の裕聖さん。デザイン関係の仕事で磨いた経験を生かし、SNSの活用やHPの管理等、マーケティング全般を担当しています。運営には奥様の後押しが大変重要で、これからも協力し合い盛り上げていきたいと話されていました。



(上)裕聖さんがデザインされたロゴ

今年の薪の販売目標は100t。既に45tの注文が入っています。薪の安定した供給を目指すと共に、薪を使ったイベント「大人の火遊び」なども予定しているそう。常連のキャンパーだけでなく、一般の方も参加可能にし、コミュニティの拡大とレベルの向上を図ります。菊本さんの挑戦は今まさに始まったばかり。海を愛し、山を愛する若い力で地域の環境を守り、山の資源を有効活用する2つの企業。これからの活躍が楽しみです。(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

# 将来の林業の担い手の確保を目指して



県立北松農業高等学校 1年生への林業教育

## はじめに

長崎県では、若者から『選ばれる』魅力ある農林業・暮らしやすい農山村の実現を目指して、第3期ながさき農林業・農山村活性化計画を策定しており、目標達成のための最重要課題となっているのが、林業の担い手の確保です。

林業普及指導員は、担い手の受け皿となる林業事業体の経営改善・強化を支援し、目標達成に向け日々普及活動を行っています。

また、このことに加えて、将来の林業の担い手として、管内の小中学生や高校生に対しての森林・林業教育なども行っています。

## 林業のイメージの改善

残念ながら、一般的に林業という産業は、あまり認知されておらず、認知されていても、昔ながらの3K（きつい、汚い、危険）のイメージが先行しているのが現状です。

そこで、管内の高校生に実際の林業の現場や仕事内容を体験してもらい、機械化による省力化・快適性の向上や林業のカッコよさに触れて、イメージの改善に取り組んでいます。



林業体験学習



佐世保市立潮見小学校 4年生への林業教育

また、小学校の社会科の授業や緑の少年団の活動に林業普及指導員がお邪魔し、人々の暮らしを守り支えている森林の働きや、林業が健全な森林を育て、持続可能な社会へ貢献していることなどを説明しています。さらに、お金等では評価できない林業の意義や魅力・やりがいを発信するため、日頃から森林・林業教育を行ない、将来の林業の担い手を育成しています。



佐世保市祇園緑の少年団への林業教育

林業という時間軸が長い産業を持続可能なものとしていくためには、将来の担い手を確保して森林資源を守り育てていくことが大切です。将来の林業のためにも責任をもって普及指導活動に取り組んでまいります。

(県北振興局 林業課)

地方だより

# 林業現場安全パトロールの実施 ～「林業の労働災害をゼロへ」の実現に向けて～



安全指導の様子  
(左)林災防 林事務局長  
(右)㈱長崎林業 現場作業員



フォワーダによる集材作業指導の様子  
(左)真樹フォレスト㈱ 現場作業員  
(右)林災防 林事務局長

(単位:人)

## 現場安全パトロールの実施

林業・木材業で従事する方の労働災害を減少させることを目的とした「林材業労働災害防止計画」に基づき、長崎県林業普及指導員と林業・木材製造業労働災害防止協会（以下、林災防）が連携して、東彼杵町の林業現場において林業現場安全パトロールを実施しました。

林災防の林事務局長は、チェーンソー伐倒作業の状況確認後、作業の講評を行いました。安全衛生上における作業の問題点はなく、チェーンソーやプロセッサの故障等も確認されませんでした。安全対策の指導として、現場作業員同士での労働災害を減らすために、伐倒作業中の呼子を使用した警戒合図の徹底や、林業機械を操縦する際の周囲の状況確認の徹底等の注意喚起を行いました。

## 林業における労働災害の現状

林業の労働災害は、長期的には減少傾向で推移していますが、他産業と比較すると労働災害発生率は高くなっています。労働災害撲滅に向けて、今後とも安全衛生対策の確実な実行が必要になります。

区分	平成30年	令和元年	令和2年	
労働災害(休業4日以上)	全産業(千人率)	127,329 (2.3)	125,611 (2.2)	131,156 (2.3)
	林業(全国)(千人率)	1,342 (22.4)	1,248 (20.8)	1,275 (25.5)
	林業(長崎)	12	12	9

表 林業における死傷災害発生状況  
資料:林野庁HP「林業労働災害の現況」

## 労働災害ゼロの実現に向けて

林業の現場は傾斜地で大きな木を相手とする大変な作業も多いですが、現在、高性能林業機械の導入を進めて安全性の向上に努めているほか、各事業体においても、労働災害の防止を最優先に業務に取り組んでいます。

林業における経験年数別の労働災害発生状況は、経験年数が短い者ほど被災者が多くなっています。長崎県の林業における労働災害ゼロの実現に向けて、安全衛生教育の充実など、安全対策の強化を図ることを今後も事業者者に指導していきます。

(県央振興局林業課普及班)

地方だより

## 令和3年度 翁頭中学校卒業記念植樹

昨年12月21日、五島市内の翁頭山にて、令和3年度翁頭中学校卒業記念植樹が開催されました。

この記念植樹は、自然の素晴らしさを体験するとともに、子どもたちに地元の山林への愛着を深めてもらうことを目的として、翁頭山森づくり協議会が毎年開催しています。

今年度は29名の3年生が参加しました。



森林学習

### 記念植樹

参加した生徒は、協議会や学校の先生方の指導のもと、モミジ2苗を植栽しました。

近辺には、これまでの卒業生たちが植えたモミジやサクラの木があり、今回植えたモミジとともに、翁頭山の四季を彩ってくれます。



記念植樹

### 森林学習

中腹の広場では、五島振興局の林務課職員が指導者となり、森林学習を行いました。

森林の働きや、それを維持するための林業の大切さについて説明した後、中学校で習う三角形の相似条件を応用して、樹高を測る実習を行いました。

限られた短い時間でしたが、生徒たちは広場にあるヒノキをそれぞれ測り、自分の測定結果と事前に計測していた樹高との答え合わせをして盛り上がっていました。

### 卒業記念登山

全長約1kmの登山道を、協議会の方々に先導してもらいながら生徒全員で登り切りました。

登山道は毎年協議会の方々が整備等手入れをして、手すりや階段も設置され、登りやすく整備されています。中腹や山頂にも木製のテーブルや椅子が設置されており、生徒たちは椅子に座り景色を楽しんでいました。この日は天気にも恵まれ、頂上からは周囲の山々や街並み、海まで見渡すことができました。



登山道を登る生徒

今春卒業となった生徒にとっては、心に残るいい思い出になったのではないのでしょうか。

今後も協議会とともに五島振興局も協力して、森林や林業に興味を持つきっかけとなる、このような活動を継続していきます。

(五島振興局林務課)

林業団体情報

# 令和4年度 長崎県民の森 年間イベントのお知らせ

日頃より長崎県民の森をご利用いただき感謝申し上げます。

長崎県民の森では、多くの県民の皆様には森で楽しんでいただくよう多くのイベントを企画しておりますのでご紹介いたします。

なお、今年は自然クラフト教室や松ぼっくりツリー作りなど小中学生や親子を対象としたイベントを追加しています。家族でワイワイ楽しんで作って、家に飾ってもらえたらと企画しました。

2022		イベント内容
6月	26日	野生きのご観察会Ⅰ
7月	1日～ 9月30日	ながさき県民の森 フォトコンテスト 2022
	24日	夏休み自然クラフト教室 水の生き物と遊ぼう
8月	7日	夏休み木工教室
	11日	山の日イベント
9月	18日	凧づくり
	25日	野生きのご観察会Ⅱ
10月	16～11/3	どんぐりのひみつ展(森林館)
	23日	どんぐり染め
11月	20日	紅葉狩り健康ウォーキング
		クリスマスリース作り
12月	4日	冬の森で遊ぼう
	4日、11日	松ぼっくりツリー作り
	18日	ミニ門松作り
2023		イベント内容
1月	22日	親子で木工製作
2月	19日	冬芽観察と焼きマシロ・焼き芋
3月	4日	シイタケの駒打ち体験



夏休み木工教室

## ◆ 新入職員紹介

令和4年1月より、長崎県民の森森林館に新しい職員が入りましたので紹介します。



名前：廣島 奈々子 (フォトグラファー)

廣島さんには、森林館での接客のほか特技の写真を活かし、県民の森HPやインスタグラムなどを通して県民の森のPRを担ってもらうこととしています。皆様、県民の森にお越しの際には是非、声をかけてください。

(長崎県民の森管理事務所)

どれも、毎年大人気で、特に夏の「水の生き物と遊ぼう」や「木工教室」、冬の「クリスマスリース作り」や「ミニ門松作り」はとも申込者が多いイベントとなっています。

申し込みには先着順、抽選などありますので募集チラシをチェックして申し込んでください。

センターだより

# 松くい虫被害を抑えるために ～マツノマダラカミキリ初発生日予測図の作成～

## はじめに

マツ林に甚大な被害をもたらす松くい虫被害は、国内最大の樹病被害で、県内の被害量は令和2年度においても約26,000㎡と、近年でも被害量が増加しています。

松くい虫被害はマツを枯らすマツノザイセンチュウと、それを媒介し被害を拡大させるマツノマダラカミキリ（以下、カミキリ）によって引き起こされます。被害対策の一つとして、薬剤の予防散布がありますが、カミキリが発生する時期を見極めて、数多く発生するピーク時の前に適切に薬剤を散布しなければ、高い効果が望めません。

## カミキリはいつ発生する？

これまででも、当センターは野外の網室に松くい虫被害木を保管して発生予察を行い、カミキリの初発生日を通知してきましたが、それでは予防散布の準備に間に合わず、わかりにくいという意見がありました。

そこで、2021年度は、発生予察を行うとともに、4月末時点での初発生日予測図を作成しました（図1）。

これはカミキリの発生には2月以降の有効積算温度（日平均気温から12℃を引いた数値の積算量）が関係しているとする当センターの研究情報と、農研機構\*メッシュ気象データを活用して作成したものです。色の違いにより、カミキリの初発予測日を示しています。

※農研機構：農業・食品産業技術総合研究機構

## 予防散布の適期は？

カミキリが初発生してから2週間後が予防散布の適期とされていますので、2021年の県本土、五島地区での予防散布の適期は6月上旬だったことがわかります。

## 予測の結果はどうだった？

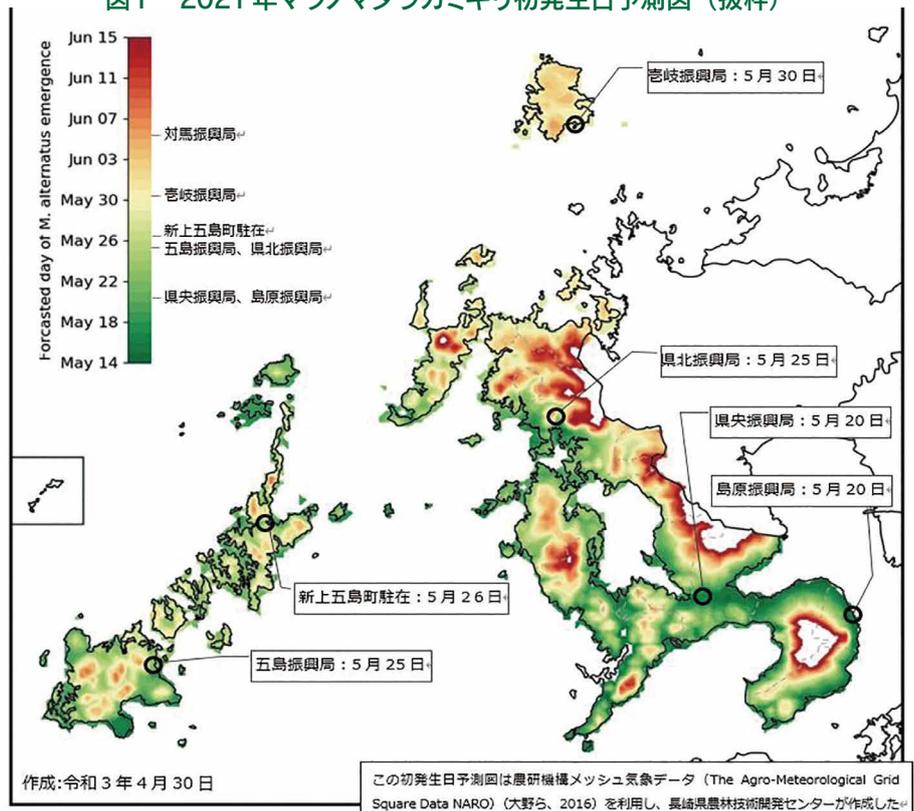
諫早市内の当センターでの2021年のカミキリの初発生予測日は5月20日、実際のカミキリの初発生日は5月18日と2日のずれがありました。

カミキリの初発生日はその年の気候だけでなく産卵時期や被害木の保管状況等によっても影響を受けますが、今回の予測はかなり近い結果でした。

今後もこの取組を継続し、予防散布の適期を周知することが、松くい虫被害の抑制の一助になると考えています。

（長崎県農林技術開発センター）

図1 2021年マツノマダラカミキリ初発生日予測図（抜粋）



紹介コーナー

# 木作家 濱端弘太(はまばたこうた)さん



作業場に並ぶ濱端さんの作品たち

小鳥のさえずりが心地よい静かな山の麓に、古民家を改築して作られた1軒の工房があります。温かい光が差し込む作業場で日々制作活動を進めているのが、長崎市出身の若き木作家、濱端弘太さんです。

小さい頃から物作りが好きだったと話す濱端さんは高校生の頃、飛騨高山の家具に感銘を受けたそう。家具職人を目指すべく、京都の伝統工芸大学校で日本の美や伝統の技の土台を学びました。卒業後は、大阪で府の重要無形文化財保持者の藤寄一正氏に師事、基礎となるデザインや技法を学ぶ中で、削り物の魅

力に心を奪われ、木作家の道へと進みました。皿や盆、カトラリーなどの作品はどれも削りだけを使い一刀一削り出す削り物。ナラ、クリ、セン、ホウ、カエデなど様々な樹種の銘木から生み出されています。濱端さんの作品は実に繊細で、丁寧に施された手仕事の柔らかさを感じると同時に、澄んだ空気感が漂う上品で美しいものばかり。見る角度や光の加減により表情を変える姿は正に芸術品です。国内外からのオーダーやギャラリーでの個展等、日本伝統の美と新しい感性の融合から生まれる木作品が今、注目を集めています。



左：ホウの高台皿 中、右：制作風景と鑿

## 木作家 濱端 弘太

住所：長崎県長崎市小浦町 639-2

MAIL：kotahamabata@gmail.com

※お問合せはメール又はインスタグラムにて

## 伊万里木材市況

### 【ヒノキ】

令和4年4月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	23,600	普通	普通	多い
	16～18	小曲り	21,200	普通	普通	多い
	20～22	直	23,500	普通	普通	多い
	20～22	小曲り	21,000	普通	普通	多い
	24～28	直・小曲り	22,500	少ない	普通	多い

### 【スギ】

令和4年4月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	16,300	普通	多い	多い
	16～22	小曲り	14,500	普通	多い	多い
	24～28	直	16,300	普通	多い	多い
	24～28	小曲り	14,500	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

## 長崎市いこいの里



あぐりの丘の牧場から見下ろす風景

長崎市いこいの里（以下、「いこいの里」という）は、長崎市の市街地から北西約10kmと比較的近距離にある自然豊かな場所で草原、湿地、雑木林及び溪流などが有機的に結びついた豊かな自然環境があり、多くの動植物が生存し、市民が自然と触れ合うにはとても良い場所です。又、<sup>やはすだけ</sup>矢筈岳（標高 336m）の頂上から見下ろす五島灘は絶景です。

いこいの里は、あぐりの丘地域（約 50ha）、里山再生地域（約 50ha）及び森林地域（約 130ha）で構成されています。なかでも「あぐりの丘」は、いこいの里の東側斜面に建設された農業公園型施設で、平成 10 年（1998 年）7 月に開園しました。この施設は、市民参加による人と自然のふれあい体験や食農教育の推進に重点を置いています。あぐりの丘のネーミングについては、市民から愛称を公募し、225 件のアイデアから有識者による慎重な審議を経て決定されました。あぐりの丘のネーミングは、「農業」を意味する「アグリカルチャー」と丘状の地形にちなんでいるそうです。

いこいの里を継続的に整備し子供達へ森林の楽しさを伝えている森林ボランティア団体「長崎市いこいの里の森保全の会」代表 <sup>はやかわかんじ</sup>早川莞爾さん（77 歳）の話では、かつていこいの里の森林は、手入れがされず、木

がうっそうと生い茂り、森林内を歩こうとしても薄暗く道幅が狭くて歩きづらかったそうです。

今では森林内でヨガやネイチャーゲームを楽しんだり、ニホンアカガエルやカスミサンショウウオなどの自然観察会、森林散策、つわぶきの採集及び植林活動など多くの人が気軽にイベントを楽しめる明るい森林空間となりました。あぐりの丘を訪れ楽しむ人がいることがいこいの里の森林ボランティア活動を活発化する要因になったのかもしれない。

人と自然のつながりを体感するためには、里山の自然に触れてみることです。里山は人間が利用することで成り立つ世界です。市民が野山を使って楽しみ遊ぶことが自然を体感し里山を守ることになります。いこいの里は、里山を体験するにはふさわしい場所と言えるでしょう。

（NPO 法人地域循環研究所）

長崎の林業 5月号 第800号  
編集・発行 長崎県林政課  
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号  
電話：095-895-2988  
ファクシミリ：095-895-2596  
メールアドレス：  
s07090@pref.nagasaki.lg.jp